学　校　自　己　評　価　計　画　書

石川県立七尾特別支援学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上	①	各教員が単元ごとに計画を振り返り、修正や見直しを行うことで授業改善につなげる。	研究研修課	これまで取り組んできた授業改善では、授業研究ごとに整理会や振り返りを行い改善授業につなげることで進めてきた。しかし、単元全体としての改善が不十分で単元計画の振り返りや見直しに取り組む必要がある。	【努力指標】 教員が単元計画の振り返りを行い、単元の修正や見直しに取り組む。	各単元が終わった後にその振り返りを行い、他の単元や次年度の単元計画の修正や見直しを年間３回以上行った教員の割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 （９、２月）
		②	児童・生徒が主体的にタブレット端末を活用できる授業に取り組む。	情報教育課	GIGAスクール構想により、今年度より小・中学部の児童生徒には１人１台タブレット端末が用意され（高等部は３人に１台）、さらに、校内のWi-Fi環境が整ったことで、児童・生徒が主体的に活用できる授業づくりに取り組む必要がある。	【努力指標】 児童・生徒が主体的にタブレット端末を活用する授業を行った。	児童・生徒が主体的にタブレット端末を活用する授業を行った教員の割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 （９、２月）
2	組織的・系統的なキャリア教育	①	児童生徒が家庭での自分の役割をもち、それを継続して行うことができる。	小学部 中学部 高等部	本校では、一昨年までの３年間「キャリア発達を促す学校作り」を研究テーマに取り組んできた。しかし、学校での成果が保護者に十分伝わっているとはいえなかった。そこで、キャリア教育の実践を家庭を含めて般化させていくために、学校と家庭が連携し、児童生徒の活動への意欲が育つ取り組みが必要がある。	【努力指標】 学校と家庭とが連携して決めた役割を、児童生徒が一定期間、継続的に取り組む。	家庭での自分の役割について、別途指定する一週間のうち、４日以上取り組めた児童生徒の割合が A　７０％以上である。 B　６０％以上である。 C　５０％以上である。 D　５０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	５月に役割を決定、保護者対象としたアンケートによる評価 （７、12月）

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
3	安心・安全な学校づくり	①	各学部、各クラスで携帯電話等に関する学習を取り入れる。	学校安全課 生徒指導課	昨年度から児童生徒のスマートフォン・携帯電話の使用状況を調査し、本校独自のガイドラインや家庭のルールを作成した。携帯電話に関するトラブルも何件か発生しており、定期的な指導の必要がある。	【努力指標】 全学部、年間２回以上各クラス等で携帯電話等に関する学習や確認を行う。	年間２回以上、携帯電話等に関する確認や学習を行ったクラスの割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	担任アンケートによる評価 （９、２月）
		②	校内の「性に関する指導」の授業内容を共有し、系統的な指導に取り組む。	健康推進課	一昨年度より継続的に系統的な「性に関する指導」の体制作りに取り組んでいる。昨年度は教材の充実を図ることに取り組んだ。一方、他学部での授業内容を知らない教員も多く、系統性のある指導体制を整えるためには、他学部での授業内容を踏まえたうえで、指導を行っていく必要がある。	【努力指標】 他学部で実施されている「性に関する指導」の授業を参観し、担当学年の指導に活かす。	他学部の「性に関する指導」の授業を１回以上参観し、担当学年の指導に活かした教員の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価(９、２月)
4	業務の効率化	①	学級経営や校務分掌において、効率的な情報伝達や情報共有の方法を進める。	全教員	教員間の情報伝達や情報共有をする際、十分伝わりきれていないことや、打ち合わせや会議などに必要以上の時間をかけてしまう傾向があり、効率的な方法を工夫する必要がある。	【努力指標】 各教員が学期に２回以上、情報伝達や情報共有で効率的な方法を工夫する。	情報伝達や情報共有を効率的になるように工夫した回数が学期に２回以上の教員の割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 （９、２月）